

2022年度プレスセミナー

『セルメ税制 5年間の総括と今後に向けて』



生活者15万人調査から見えた セルフメディケーション税制



日本一般用医薬品連合会

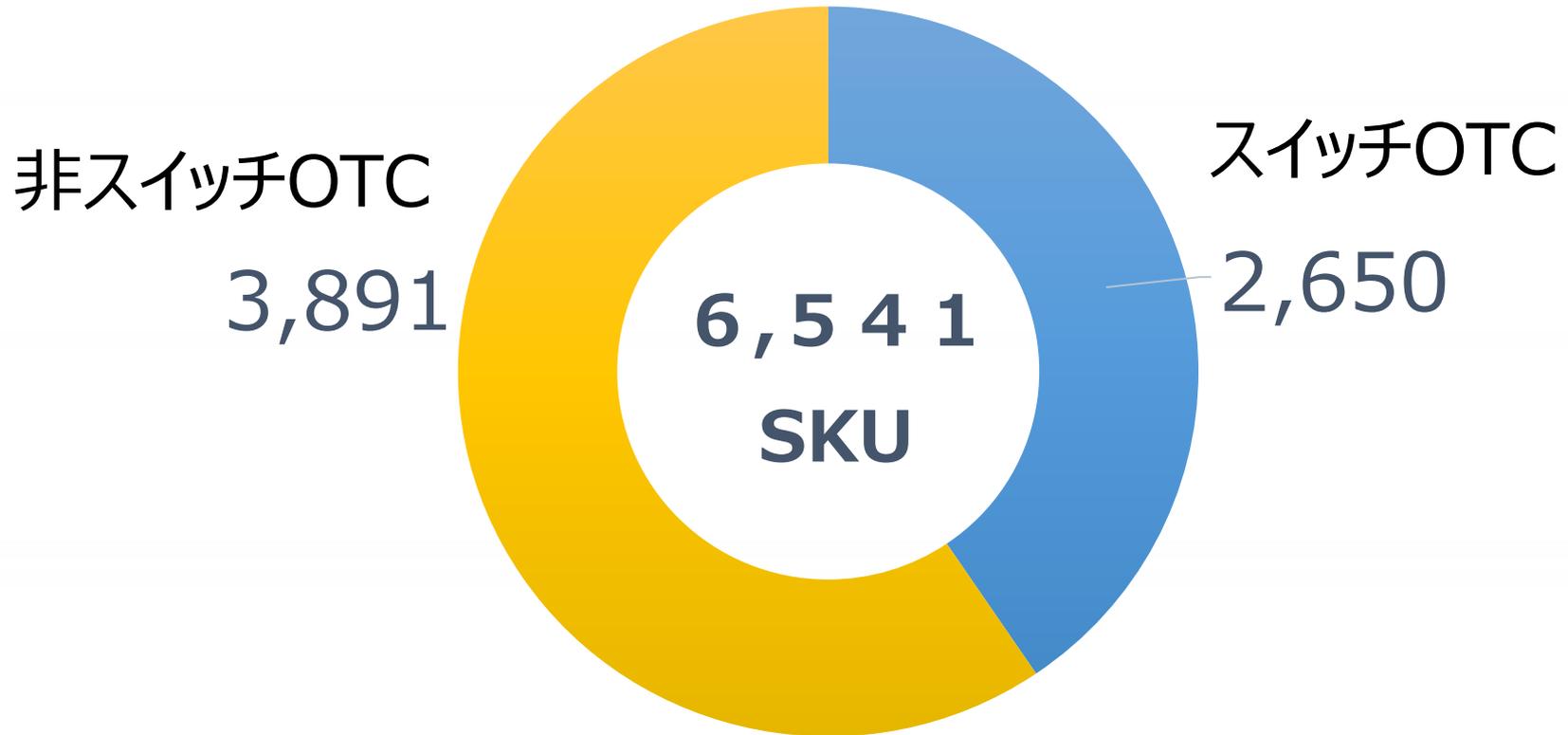


日本OTC医薬品協会

セルフメディケーション税制の利用者は、5年間で約13万5千人

(単位：千人)	2017年分	2018年分	2019年分	2020年分	2021年分
医療費控除	7,491	7,595	7,560	7,245	7,429
内、セルフ税制	26	26	30	25	28

2017～2018年分は翌年3月末日まで、2019～2021年分は翌年4月末日までに提出された確定申告書の枚数。



SKU : Stock Keeping Unit
在庫管理上の品目数
数値は2022年9月1日、厚労省発表

トピックス：セルメ税制対象製品の販売金額比率

2017年

2021年

2022年
1月～6月

24%

26%

49%

- ・2017年から2021年の対象製品はスイッチOTC
- ・データソースはSDIおよびSRI+

生活者15万人調査の歩み

2021年8月

セルメ税制利用群の特徴

- ✓ 15症状経験率、OTC使用率、病院受診率のいずれも、15万人の平均値よりも高い。
- ✓ 軽い症状はOTCで対処する。
- ✓ 健康意識、IT・金融のリテラシーが高い。
- ✓ セルメ税制利用の動機のうち、利用群に特徴的なのは、「医療費を増やさないことに貢献」。

2019年3月

症状別の受診・OTC 対処

- ①群：セルメ税制利用群
- ②群：セルメ税制利用予備群・下限超え
- ③群：セルメ税制利用予備群・下限未達

			受診日数	医療費	OTC 購入金額
軽い風邪の症状	①群 (n=56)	-9.0	-10.7	35.8	
	②群 (n=266)	3.4	2.2	12.8	
	③群 (n=344)	-6.4	-3.2	8.2	
軽いアレルギー（鼻や眼の症状）	①群 (n=49)	-2.0	-2.0	20.4	
	②群 (n=214)	4.7	1.0	10.7	
	③群 (n=251)	-7.9	-7.1	4.8	
軽い頭痛、生理痛	①群 (n=39)	-15.3	-12.8	-2.5	
	②群 (n=159)	-5.0	-6.3	7.6	
	③群 (n=238)	-8.8	-6.8	7.5	

数値は、2017年と比べた2018年の増減差(pt): 増加した人比率-減少した人比率。

2020年3月

制度拡充による利用拡大推計

	利用推計人数 (万人)	減税規模 (億円)	還付額/人 (円)
現状 (スイッチOTC医薬品が対象)	3	1	3,100
全OTC医薬品(3類以上) に拡大	19	8	4,400
全OTC医薬品に拡大して、 下限をゼロに	24	13	5,400

2018年3月

セルメ税制利用群の特徴

- ✓ 健康診断受診率、ワクチン接種率が高い。
- ✓ 軽い症状はOTCで対処する。
- ✓ 対象品の年間購入額は平均約3万4千円。

生活者が望む制度改善のポイント

- ✓ 申告書類作成の簡素化
- ✓ 還付金額の増額
- ✓ 控除下限額の引き下げ
- ✓ 控除対象範囲の拡大

2022年3月

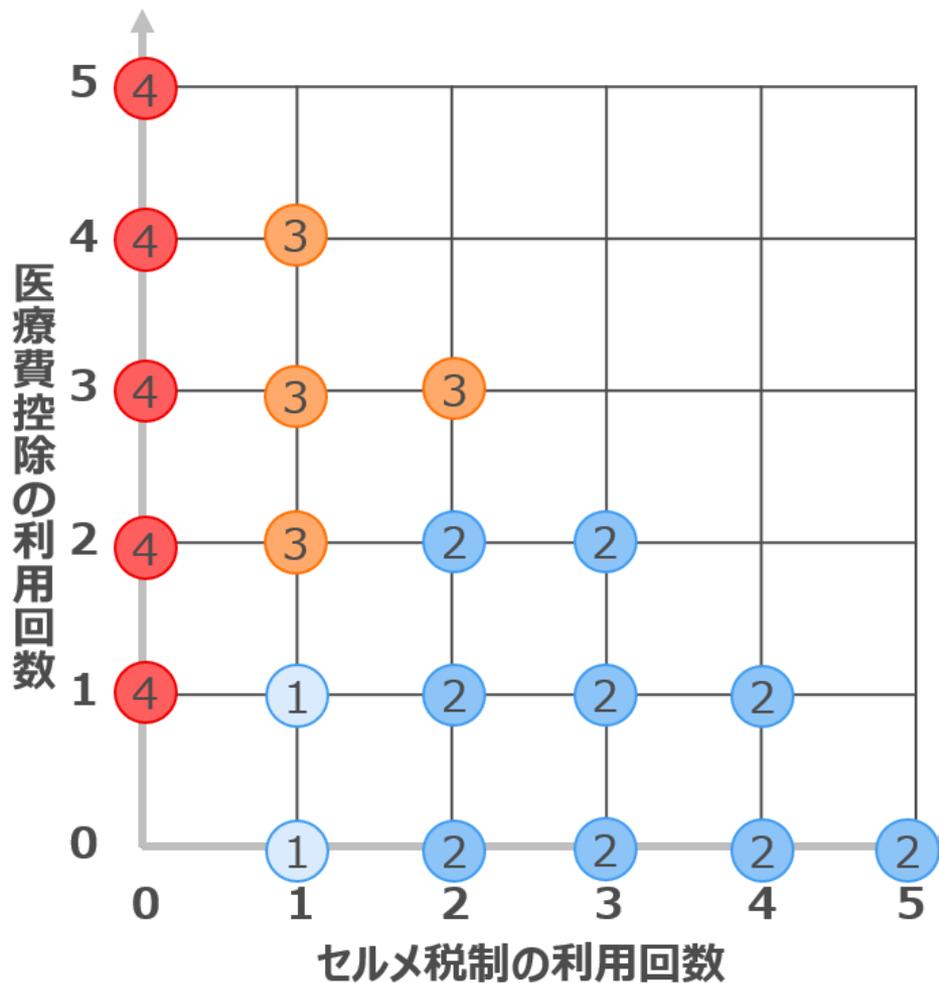
- 浸透状況
- レディネス（準備度）
- 阻害要因
- セルフメディケーションの推進策
- **ヘルスリテラシーとセルフメディケーション税制の利用**
聖路加国際大学大学院 米倉准教授が本日、講演されます
- **セルフメディケーション税制関連の市場動向と生活者の意識**
(株) インテージヘルスケア 長嶋シニアリサーチャーが本日、講演されます

生活者15万人調査 実施概要

調査対象・地域	・全国の男女20～69歳 ・二次調査対象者は、2021年分の確定申告状況、セルフ税制の認知・利用意向、OTCの年間購入金額、税制対象品購入金額などの条件によって抽出
調査手法	インターネット調査
抽出フレーム	インテージグループ インターネットリサーチモニター ※調査モニター情報より、マスコミ、広告、市場調査会社・シンクタンク関連の勤務者とその家族は除外。学生を除外。
サンプル数・調査項目数	■ 一次調査：152,643サンプル 15問以内 ■ 二次調査： 1,209サンプル 15問以内
スケジュール	■ 一次調査：2022/3/25（金）～3/29（火） ■ 二次調査：2022/4/15（金）～4/19（火）
調査実施機関	株式会社インテージヘルスケア
その他特記事項	ウェイトバック集計処理：一次調査は性年代別・エリア別人口構成比率に合わせてウェイトバックを行った。

二次調査の分析セグメント

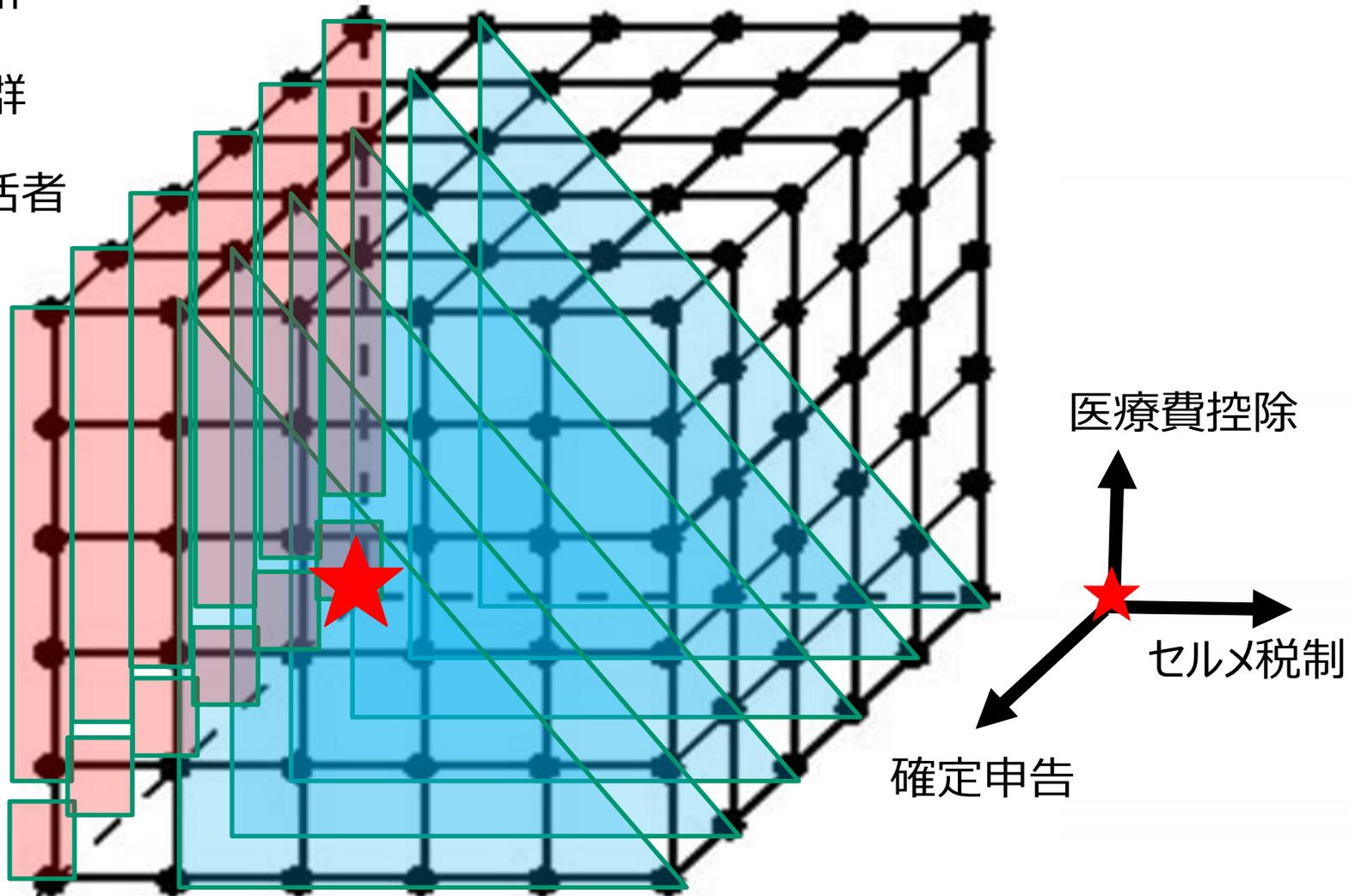
過去5年間（2017年分～2021年分）の確定申告実績、セルメ税制利用回数、医療費控除利用回数により、7グループに分けて分析した。



セルメ税制利用群： ①セルメ税制トライアル利用 (n=26)	過去5年間で、セルメ税制利用回数が1回、医療費控除利用回数が1回以下の人
セルメ税制利用群： ②セルメ税制主利用 (n=70)	過去5年間で、セルメ税制利用回数が、医療費控除利用回数と同じか上回る人
セルメ税制利用群： ③医療費控除主利用 (n=35)	過去5年間で、医療費控除利用回数がセルメ税制利用回数よりも上回る人
セルメ税制利用予備群： ④医療費控除のみ利用 (n=355)	過去5年間で、医療費控除のみ利用した人
セルメ税制利用予備群： ⑤確定申告あり・医療費控除、セルメ税制申告なし (n=343)	過去に、確定申告経験はあるが、医療費控除、セルメ税制の申告はない人
セルメ税制利用予備群： ⑥確定申告なし・セルメ税制認知・利用意向ありTOP2 (n=184)	過去に、確定申告経験がなく、セルメ税制を認知しており、利用意向がTOP2の人
⑦一般生活者 確定申告なし・セルメ税制認知・利用意向なしBOTTOM3 (n=196)	過去に、確定申告経験がなく、セルメ税制を認知しており、利用意向がBOTTOM3の人

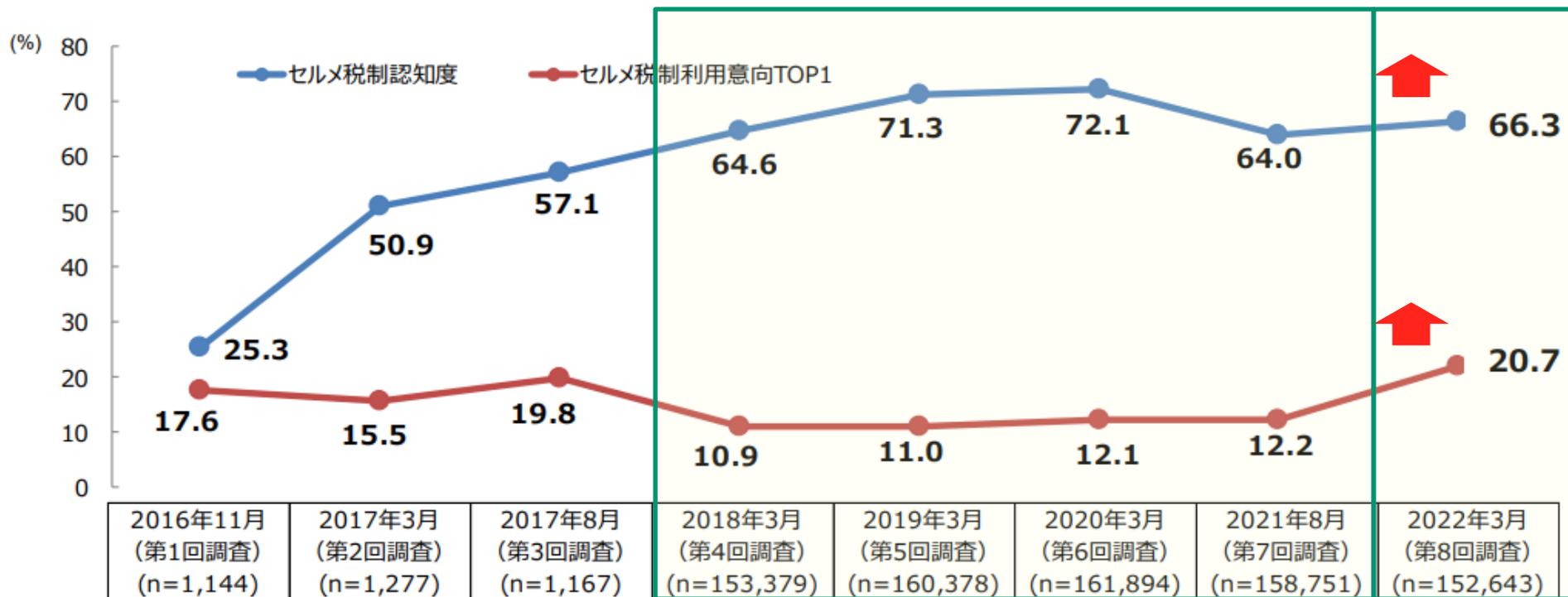
二次調査の分析セグメント

-  利用群
-  予備群
-  一般生活者



浸透状況（セルメ税制の認知度・利用意向）

➤ 利用意向TOP1は20.7%に増加、新制度への期待が高まる



※認知度の定義について

第1回～第3回調査：「詳しく知っている」「名前は聞いたことがあるが、内容はあまり知らない」「名前は聞いたことがあるが、内容はまったく知らない」の合計。

第4回調査以降：「よく理解している」「ほぼ理解している」「聞いたことはあるが、あまり理解していない」「聞いたことはあるが、理解していない」の合計。

※利用意向の定義について

セルメ税制について、「利用したい」「まあ利用したい」「どちらともいえない」「あまり利用したくない」「利用したくない」の5段階評価のうち、「利用したい」の値。

浸透状況（セルメ税制の性世代別の認知度）

- ▶ 前回調査と比べて、男女20代で認知度は上昇した。
- ▶ 男性よりも女性の方が高い。また年代が上がるにつれて高くなる。

	2016年11月 (第1回)	2017年3月 (第2回)	2017年8月 (第3回)	2018年3月 (第4回)	2019年3月 (第5回)	2020年3月 (第6回)	2021年8月 (第7回)	2022年3月 (第8回)	差 今回－前回
TOTAL	25.3	50.9	57.1	64.6	71.3	72.1	64.0	66.3	2.3
男性計	24.6	46.1	53.9	61.2	69.0	69.5	60.9	62.7	1.8
女性計	26.0	55.8	60.2	67.9	73.4	74.8	67.1	69.8	2.7
男性20代	21.7	33.0	45.2	50.4	56.9	54.8	50.4	54.5	4.1
男性30代	21.3	50.4	58.8	59.9	67.3	66.4	59.9	62.0	2.1
男性40代	27.7	47.6	52.5	59.7	68.4	70.3	62.7	62.3	-0.4
男性50代	22.4	46.9	53.5	62.5	70.7	73.1	62.3	63.5	1.2
男性60代	29.4	50.4	59.5	70.7	79.1	79.3	67.1	69.9	2.8
女性20代	16.9	32.3	42.0	53.2	58.1	57.2	53.7	59.1	5.4
女性30代	15.7	57.0	60.5	66.2	71.2	73.3	66.2	69.0	2.8
女性40代	24.0	68.7	65.1	69.3	74.8	77.4	69.5	71.5	2.0
女性50代	33.4	60.4	65.0	72.2	78.1	80.2	71.2	72.6	1.4
女性60代	41.2	62.2	66.4	73.5	80.4	80.3	71.0	73.8	2.8

浸透状況（セルメ税制の性世代別の利用意向）

- ▶ 前回調査と比べて、いずれの性年代においても利用意向TOP1は上昇した。
- ▶ 利用意向TOP1は、男性よりも女性の方が高い。

	2016年11月 (第1回)	2017年3月 (第2回)	2017年8月 (第3回)	2018年3月 (第4回)	2019年3月 (第5回)	2020年3月 (第6回)	2021年8月 (第7回)	2022年3月 (第8回)	差 今回－前回
TOTAL	17.6	15.5	19.8	10.9	11.0	12.1	12.2	20.7	8.5
男性計	17.1	14.3	19.5	10.4	10.6	11.6	11.6	19.3	7.7
女性計	18.0	16.7	20.1	11.3	11.4	12.5	12.8	22.1	9.3
男性20代	10.4	11.6	14.8	10.3	11.6	12.0	12.5	19.0	6.5
男性30代	19.7	17.1	26.1	11.8	11.5	12.3	12.1	18.8	6.7
男性40代	14.3	13.3	18.6	10.4	10.8	11.8	11.5	19.4	7.9
男性50代	15.0	12.7	15.5	10.1	10.2	12.0	11.0	19.7	8.7
男性60代	24.6	16.6	22.3	9.7	9.3	10.1	10.9	19.6	8.7
女性20代	14.4	13.4	16.8	11.5	11.9	14.1	13.7	21.3	7.6
女性30代	27.8	16.2	25.7	12.4	13.0	13.9	14.1	22.4	8.3
女性40代	12.4	23.1	19.8	11.4	11.8	12.8	12.7	22.7	10.0
女性50代	17.6	13.0	16.7	11.5	11.1	11.8	12.9	23.1	10.2
女性60代	18.3	18.5	21.3	10.0	9.6	10.6	11.1	20.7	9.6

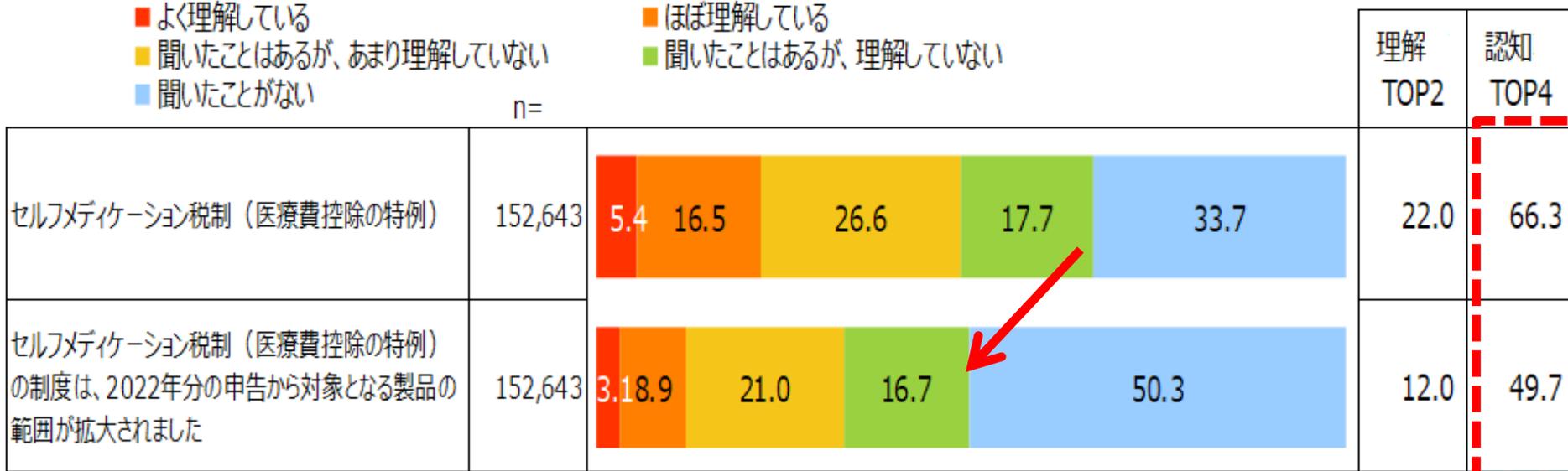
※利用意向の定義について

セルメ税制について、「利用したい」「まあ利用したい」「どちらともいえない」「あまり利用したくない」「利用したくない」の5段階評価のうち、「利用したい」の値。

浸透状況（セルフ税制の対象範囲拡大の認知度）

➤ 対象範囲拡大の認知度は49.7%にとどまる

- よく理解している
- ほぼ理解している
- 聞いたことはあるが、あまり理解していない
- 聞いたことはあるが、理解していない
- 聞いたことがない



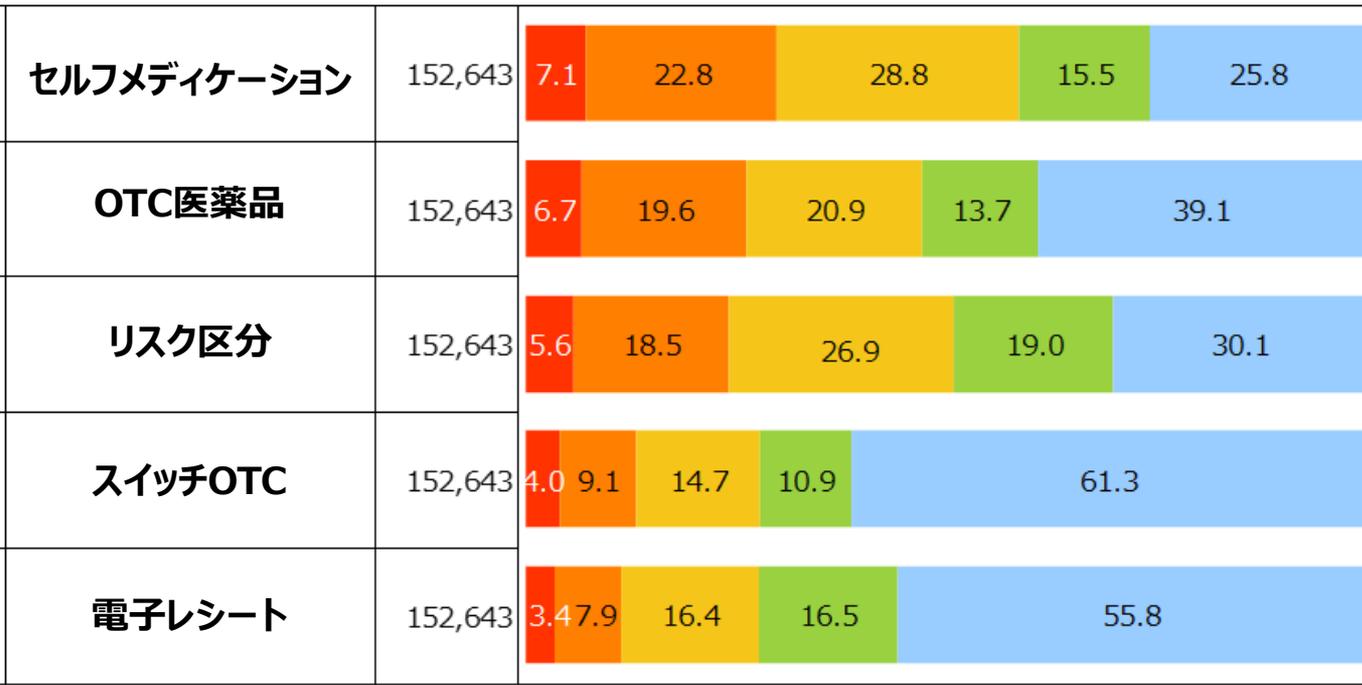
浸透状況（用語の認知・理解）

▶ 「セルフメディケーション」の認知、理解は前回調査より上昇

- よく理解している
- 聞いたことはあるが、あまり理解していない
- 聞いたことがない
- ほぼ理解している
- 聞いたことはあるが、理解していない

2022年調査 2021年調査

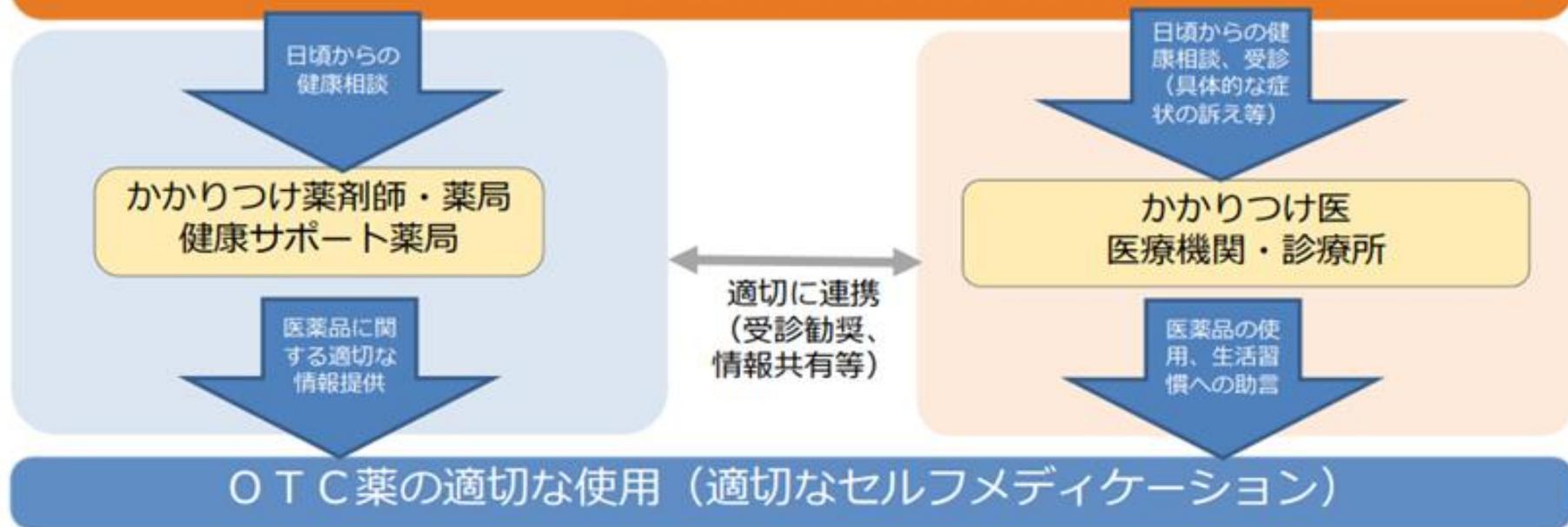
	理解 TOP2	認知 TOP4	理解 TOP2	認知 TOP4
セルフメディケーション	29.9	74.2	26.7	67.0
OTC医薬品	26.3	60.9	25.4	60.4
リスク区分	24.1	69.9	32.9	80.4
スイッチOTC	13.1	38.7	13.4	35.2
電子レシート	11.3	44.2	11.8	40.8



浸透状況（セルフ意識を高めるメリット）

健康に関する関心・正しい理解、予防・健康づくり（セルフケア）

症状の自覚、症状や状況に応じた適切な行動



浸透状況（セルフ意識を高めるメリット）

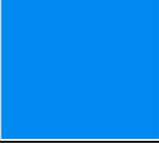
【セルフメディケーション推進の3つのメリット】

- ① 疾病の予防・早期発見・早期対処・重症化予防によって、国民の健康寿命を延伸することができる。
- ② 健康寿命の延伸が高齢者の社会参加を促し、労働力の確保と消費の活性化により、経済成長が期待できる。
- ③ 国民の行動変容を促し、限りある医療資源を有効活用することで、社会保障制度を維持することが可能となる。

浸透状況（セルフ意識を高めるメリット）

セルフ税制利用群（①②③） n=131

「あてはまる」

健康に関する関心・理解、予防・健康づくりが進み、 症状や状況に応じた適切な行動がとれるようになる		25.2
病気の予防、早期対処により、健康寿命が延びる		23.7
人生で働くことができる時間が長くなり、消費が増えるので、 国の経済成長に貢献できる		16.8
OTC医薬品の適切な使用により、病院・診療所の受診が減り、 時間を有効活用できて生産性が上がる		26.0
OTC医薬品の適切な使用により、病院・診療所の受診が減り、 国全体の医療費を増やさないことや、医療資源の有効活用にご 貢献できる		28.2

「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうち、TOP1「あてはまる」の割合（%）

浸透状況（セルフ意識を高めるメリット）

一般生活者（⑦） n=196

「あてはまる」

健康に関する関心・理解、予防・健康づくりが進み、 症状や状況に応じた適切な行動がとれるようになる	3.1
病気の予防、早期対処により、健康寿命が延びる	3.1
人生で働くことができる時間が長くなり、消費が増えるので、 国の経済成長に貢献できる	2.6
OTC医薬品の適切な使用により、病院・診療所の受診が減り、 時間を有効活用できて生産性が上がる	2.6
OTC医薬品の適切な使用により、病院・診療所の受診が減り、 国全体の医療費を増やさないことや、医療資源の有効活用にご 貢献できる	2.6

「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうち、TOP1「あてはまる」の割合（%）

浸透状況（セルメ税制利用のメリット）

セルメ税制利用群（①②③） n=131

「あてはまる」

税金が還付される	50.4
自分や家族の健康に関する関心・理解、 予防・健康づくりが進む	19.1
自分や家族の症状や状況に応じた 適切な行動がとれるようになる	20.6
OTC医薬品の適切な使用により、病院・診療所の受診が減り、 国全体の医療費を増やさないことや、医療資源の有効活用に貢 献できる	28.2

「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうち、TOP1「あてはまる」の割合（%）

浸透状況（セルフ税制利用のメリット）

一般生活者（⑦） n=196

「あてはまる」

税金が還付される	4.1
自分や家族の健康に関する関心・理解、 予防・健康づくりが進む	2.0
自分や家族の症状や状況に応じた 適切な行動がとれるようになる	1.0
OTC医薬品の適切な使用により、病院・診療所の受診が減り、 国全体の医療費を増やさないことや、医療資源の有効活用に貢 献できる	3.1

「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」のうち、TOP1「あてはまる」の割合（%）

レディネス「準備度」(レシートの保管)

- 利用群 (①②③) : 「全て保管」は80%以上
- 利用予備群 (⑤⑥) : 「全て保管」は20%以下
- 一般生活者 (⑦) : 「全て保管」は10%程度

「すべて保管している」

セルメ税制利用群 (①②③) n=131	80.2
セルメ税制利用予備群 (④医療費控除のみ申告) n=355	55.5
セルメ税制利用予備群 (⑤確定申告あり、医療費控除・セルメ税制申告なし) n=343	18.4
セルメ税制利用予備群 (⑥確定申告なし、セルメ税制認知・利用意向ありTOP2) n=184	16.8
一般生活者 (⑦) n=196	10.2

「全て保管している」「一部は保管している」「保管していない」「わからない」のうち、TOP1「全て保管している」の割合 (%)

税制利用の阻害要因

- 医療費控除との選択制
- レシート保管が面倒
- 下限1.2万
- 対象が少ない
- 明細書が面倒

	n=	従来 の医療 費控除 と併用 して利 用でき ない こと	申告 対象と なるレ シート を保管 しておく のが面 倒を あるこ と	申告 の対象 となる OTC医 薬品(市 販薬) を1万 2千円 を超え て購入 すること が必要 である こと	申告 の対象 となる OTC医 薬品(市 販薬) の種類 が少な いこと	健康 診断(特 定健康 診断、 健康診 査、がん 検診な ど)を受 ける必要 があるこ と	「セル メディ ケイシ ョン税 制の明 細書」 を作成 するの が面倒 である こと	申告 の対象 となる OTC医 薬品(市 販薬) の区分 ・分類 がわか りにく いこと	申告 の対象 となる OTC医 薬品(市 販薬) の購入 金額の 総額が 1万2千 円を超 えてい ないこ と	控除 により 戻って くる金 額を考 えると 割に 合わない こと
■セルメ税制利用群①②③	131	42.0	39.7	35.9	32.8	26.0	26.0	26.0	23.7	23.7
①セルメ税制利用群：セルメ税制トライアル利用	26	42.3	46.2	38.5	23.1	19.2	15.4	26.9	34.6	23.1
②セルメ税制利用群：セルメ税制主利用（セルメ税制利用回数が医療費控除利用回数を上回るか同じ）	70	48.6	35.7	37.1	40.0	24.3	28.6	21.4	12.9	27.1
③セルメ税制利用群：医療費控除主利用	35	28.6	42.9	31.4	25.7	34.3	28.6	34.3	37.1	17.1
④セルメ税制利用予備群：医療費控除のみ申告	355	36.1	26.8	19.2	21.1	15.5	17.5	26.8	17.2	18.0
⑤セルメ税制利用予備群：確定申告あり・医療費控除、セルメ税制申告なし	343	13.4	21.0	19.5	12.0	11.1	18.7	18.1	20.4	14.9
⑥セルメ税制利用予備群：確定申告なし・セルメ税制認知・利用意向ありTOP2	184	11.4	19.6	12.5	7.6	7.6	22.8	15.8	15.2	14.7
⑦一般生活者：確定申告なし・セルメ税制認知・利用意向なしBOTTOM3	196	5.6	11.2	9.7	4.1	5.6	9.7	9.2	8.7	10.2

セルフメディケーションの推進策（セルメ税制、その他制度）

図表2 セルフメディケーション推進のための政策案

政策案	メリット	デメリット
①OTC医薬品で対応可能な医薬品の保険給付からの除外	・医療の削減効果が直接患者本人に帰属するため、家計へのインセンティブが最も強い	・必要な診療を抑制し、医療アクセスへの格差が拡大する懸念
②セルフメディケーション税制の拡充	・現行制度の拡充で対応できる	・税務行政が対応できる範囲での制度設計となる
③OTC医薬品の消費税非課税・軽減税率化	・利用者の手続きが不要	・販売事業者の事務負担の増大 ・消費税率の範囲でしか負担軽減ができず柔軟性に欠ける
④マイナポイントを用いたOTC医薬品購入費用の一部還元	・確定申告よりも簡易な手続きで利用が可能 ・窓口負担割合や薬効別に購入費の還元率を設定することで家計に十分なインセンティブ付けが可能	・販売事業者の事務負担の増大 ・制度を利用できる人がマイナンバーカードの取得者に限られる
⑤保険者によるOTC医薬品の購入補助	・保険者ごとの加入者特性に合わせた取り組みが可能 ・④と同様に窓口負担割合や薬効別に補助率を設定することで家計に十分なインセンティブ付けが可能	・類似の制度を各保険者で別々に実施することで事務が非効率になる懸念

(出所) 大和総研作成

出所：是枝俊悟・矢田歌菜絵「セルフメディケーション推進のためには家計へのインセンティブ付けが必要」（2022年3月17日、大和総研レポート）

セルフメディケーションの推進策（セルフ税制、その他制度）

次のような制度、仕組み、ツールがあった場合に、どの程度利用したいと思いますか。

- ① セルフメディケーション税制（2022年から申告対象となる品目範囲が拡大されました）
- ② OTC医薬品に対して、消費税が非課税となる
- ③ OTC医薬品に対して、消費税の税率が軽減される
- ④ OTC医薬品をキャッシュレス決済で購入すると、購入費用の一部がマイナポイントで還元される
- ⑤ 勤務先や健康保険組合から、OTC医薬品購入費用の一部が補助される
- ⑥ OTC医薬品を自動販売機で購入できる
- ⑦ その年に購入したセルフメディケーション税制の対象品目の合計金額がわかり、セルフメディケーション税制の申告に必要な残りの金額が表示される
- ⑧ セルフメディケーション税制の申告に必要な明細書を自動で作成してくれる

セルフメディケーションの推進策（セルメ税制、その他制度）

セルメ税制利用群（①②③） n=131

「利用したいと思う」

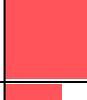
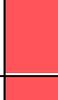
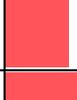
①セルフメディケーション税制（2022年から申告対象となる品目範囲が拡大されました）	58.8
②OTC医薬品に対して、消費税が非課税となる	60.3
③OTC医薬品に対して、消費税の税率が軽減される	54.2
④OTC医薬品をキャッシュレス決済で購入すると、購入費用の一部がマイナポイントで還元される	42.0
⑤勤務先や健康保険組合から、OTC医薬品購入費用の一部が補助される	44.3
⑥OTC医薬品を自動販売機で購入できる	30.5
⑦その年に購入したセルフメディケーション税制の対象品目の合計金額がわかり、セルフメディケーション税制の申告に必要な残りの金額が表示される	37.4
⑧セルフメディケーション税制の申告に必要な明細書を自動で作成してくれる	42.0

「利用したいと思う」「まあ利用したいと思う」「どちらともいえない」「あまり利用したいと思わない」「利用したいと思わない」のうち、TOP1「利用したいと思う」の割合（%）

セルフメディケーションの推進策（セルメ税制、その他制度）

セルメ税制利用予備群（⑤⑥） n=527

「利用したいと思う」

①セルフメディケーション税制（2022年から申告対象となる品目範囲が拡大されました）		13.1
②OTC医薬品に対して、消費税が非課税となる		22.8
③OTC医薬品に対して、消費税の税率が軽減される		17.6
④OTC医薬品をキャッシュレス決済で購入すると、購入費用の一部がマイナポイントで還元される		13.7
⑤勤務先や健康保険組合から、OTC医薬品購入費用の一部が補助される		15.4
⑥OTC医薬品を自動販売機で購入できる		10.2
⑦その年に購入したセルフメディケーション税制の対象品目の合計金額がわかり、セルフメディケーション税制の申告に必要な残りの金額が表示される		11.6
⑧セルフメディケーション税制の申告に必要な明細書を自動で作成してくれる		14.6

「利用したいと思う」「まあ利用したいと思う」「どちらともいえない」「あまり利用したいと思わない」「利用したいと思わない」のうち、TOP1「利用したいと思う」の割合（%）

セルフメディケーションの推進策（セルメ税制、その他制度）

一般生活者（⑦） n=196

「利用したいと思う」

①セルフメディケーション税制（2022年から申告対象となる品目範囲が拡大されました）	4.1
②OTC医薬品に対して、消費税が非課税となる	8.7
③OTC医薬品に対して、消費税の税率が軽減される	7.1
④OTC医薬品をキャッシュレス決済で購入すると、購入費用の一部がマイナポイントで還元される	5.6
⑤勤務先や健康保険組合から、OTC医薬品購入費用の一部が補助される	7.1
⑥OTC医薬品を自動販売機で購入できる	2.6
⑦その年に購入したセルフメディケーション税制の対象品目の合計金額がわかり、セルフメディケーション税制の申告に必要な残りの金額が表示される	3.1
⑧セルフメディケーション税制の申告に必要な明細書を自動で作成してくれる	2.6

「利用したいと思う」「まあ利用したいと思う」「どちらともいえない」「あまり利用したいと思わない」「利用したいと思わない」のうち、TOP1「利用したいと思う」の割合（%）

セルフメディケーションの推進策（新規スイッチOTCの拡大）

- 「片頭痛」「胃の痛み、胸やけなど」が上位に。
- 「高血圧」は、男性50代～60代が高い。
- 「片頭痛」は、女性20代～40代が高い。

	n=	片頭痛	胃の痛み、胃酸過多、胃もたれ・胃のむかつき・胸やけ、消化不良など	中性脂肪やコレステロールが高め	抗原検査薬	眠れない	血圧が高め	インフルエンザ検査薬	血糖値が高め	その他
2021年TOTAL	158,751	19.2	14.0	16.5	-	12.1	10.5	10.2	7.5	0.5
2022年TOTAL	152,643	19.7	16.9	15.1	12.0	11.6	10.5	10.3	7.3	0.4
男性	76,738	13.9	14.4	15.9	9.3	11.1	13.3	8.0	8.4	0.4
女性	75,905	25.5	19.4	14.3	14.8	12.1	7.7	12.5	6.1	0.4
男性20代	12,502	14.4	10.8	6.5	6.0	12.2	5.6	7.4	4.2	0.1
男性30代	13,911	18.8	14.8	13.8	8.8	13.3	8.6	8.4	6.2	0.4
男性40代	18,111	17.9	15.4	18.6	9.8	11.7	13.8	7.9	8.6	0.4
男性50代	17,177	11.8	14.8	19.1	10.3	10.2	17.1	8.3	10.1	0.4
男性60代	15,037	6.6	15.4	18.5	10.5	8.5	19.3	8.0	12.0	0.5
女性20代	11,906	28.7	16.7	5.4	10.8	15.2	2.8	10.2	3.2	0.4
女性30代	13,509	32.8	20.0	10.2	15.4	13.3	4.4	14.8	5.1	0.4
女性40代	17,705	30.7	20.4	15.1	16.5	11.8	7.8	14.4	6.3	0.4
女性50代	17,084	23.0	20.2	18.6	15.8	11.6	10.6	12.7	7.5	0.4
女性60代	15,702	13.4	18.6	18.9	14.3	9.8	11.0	10.1	7.4	0.4

Q：今後新たに、次のような症状に効くOTC医薬品（市販薬）や検査薬が市販されたら、使ってみたいと思いますか？

最後に

セルフケア・ セルフメディケーションの 意識と行動	健康に関する関心・正しい理解、 予防・健康づくり	ヘルスリテラシー ・健康情報の入手 ・理解 ・評価 ・活用
	症状の自覚、 症状や状況に応じた適切な行動 (OTC対処、受診等)	
	OTCの購入、適切な使用	
セルフメディケーション税制利用の レディネス (準備度)	セルフメディケーション税制の認知、理解	
	セルフメディケーション税制の利用意向	
	レシート保管	
	下限額超の購入	
	明細書作成	
セルフメディケーション税制の利用		

個人

世帯